

各 位

浦安鐵鋼団地協同組合
景況実感調査委員会

浦安鐵鋼団地景況実感調査結果表 (2024年3月分)

景況実感調査結果をお送りいたします。今回から「前年同月比」のみの調査といたしました。ご了承のほどお願い申し上げます。

調査対象 142 回答 134 回答率 94.4%

調査項目	前 年 同 月 比					計
	10%以上 増加・上昇・好況	やや 増加・上昇・好況	横這い・平常	やや 減少・下降・不況	10%以上 減少・下降・不況	
売上数量	11社	14社	38社	35社	36社	134社
	8.2%	10.4%	28.4%	26.1%	26.9%	
	(7.7)	(20.8)	(30.0)	(23.1)	(18.5)	
売上高	11社	14社	34社	37社	38社	134社
	8.2%	10.4%	25.4%	27.6%	28.4%	
	(8.5)	(17.7)	(30.0)	(25.4)	(18.5)	
在庫数量	8社	18社	56社	28社	18社	128社
	6.3%	14.1%	43.8%	21.9%	14.1%	
	(4.0)	(16.1)	(46.0)	(19.4)	(14.5)	
販売単価	7社	18社	75社	29社	3社	132社
	5.3%	13.6%	56.8%	22.0%	2.3%	
	(2.3)	(19.5)	(50.8)	(24.2)	(3.1)	
収益状況 (粗利)	8社	14社	44社	36社	32社	134社
	6.0%	10.4%	32.8%	26.9%	23.9%	
	(4.7)	(13.2)	(40.3)	(21.7)	(20.2)	
稼働率 (生産・加工設備)	4社	15社	47社	34社	16社	116社
	3.4%	12.9%	40.5%	29.3%	13.8%	
	(3.6)	(9.8)	(53.6)	(19.6)	(13.4)	
入出庫の トラック台数	3社	17社	50社	43社	18社	131社
	2.3%	13.0%	38.2%	32.8%	13.7%	
	(3.1)	(8.7)	(57.5)	(18.1)	(12.6)	
現在の 景況感	0社	6社	44社	51社	25社	126社
	0.0%	4.8%	34.9%	40.5%	19.8%	
	(0.0)	(4.7)	(48.4)	(28.9)	(18.0)	
3ヶ月後の 景況予測	1社	13社	98社	9社	4社	125社
	0.8%	10.4%	78.4%	7.2%	3.2%	
	(0.8)	(14.2)	(70.9)	(12.6)	(1.6)	
特記事項						

- 注 ①調査対象会社数は浦安に事業所の無い会社（不在地主など）は除外してあります
②()内の数字は前月のパーセントです
③結果表は全品種の動向として集計し、品種別の要因を取り上げる必要がある場合は
特記事項欄に別途記載いたします
④本調査の宛先等の変更は、浦安鐵鋼団地協同組合事務局までご連絡ください
事務局 TEL：047-350-5311 FAX：047-350-5316

景況実感調査(2024年3月)特記事項

毎月、景況実感調査にご協力頂きましてありがとうございます。集計結果は別紙にてお送りしましたが、今月もたくさんのコメントを頂きましたのでお送りします。ご査収下さい。

【お断り】寄せられたコメントは、各社担当者の現場の声です。個々の会社固有の状況にもとづくものも多々あります。業界全体及び浦安鉄鋼団地全体の見解とは必ずしも一致しませんので、お含み置き願います。また、不穏当な表現やわかりにくい表現については書き直しております。信用問題にかかわるものも原則として掲載しておりません。

薄板・表面処理鋼板

- ① 3月の販売は年度末の駆け込み需要があるわけでもなく、製品値上げを表明しても仮需が起こるわけでもなく、低調な状況が継続した。全く静かな年度末であった。年度が明けて4月になっても見積り依頼は少なく、状況が好転する気配は一向に見受けられない。
- ② 3月の加工量は前年並みを確保したが、4月以降は良い話が無く減少は否めない。そのような中、様々なコストが上昇しており、客先へ丁寧な説明をし、好循環な価格転嫁をしていかなければならない。
- ③ 加工量、売上数量は確保できたが収益、売上高は前年同月を下回った。引合いも少なく、とても値上げを行っていく雰囲気ではない。

中板

- ① 中板の実需は相変わらず精彩を欠いており、引合いは低調。末端需要が冴えず、各社値上げ要望は出しているが、実際に値上げできている先は少ない。現状ではGW頃までは値上げできる雰囲気ではない。

厚板

- ① 建設機械は機種によっては減産もあり、先が見通せない状況。店売り関連は、人手不足により客先の動きが悪化したことや、鋼材や運賃の値上げがあり売上がなかなか伸びない状況。
- ② <全体感>厚板需要は、各分野において引き続き盛り上がりがなく低調に推移している。期末における駆け込みのような特需もなく、今後の需要動向に関しても不透明感が強い。<分野別>建機分野では、24年度は需要が落ち込むトレンドとなっており、23年度比で減少傾向となっている。産機分野も先行き回復の見通しは立っていない。下期に回復期待の計画ではあるが、長期化も懸念されている。店売り分野も鋼材価格の高止まりと不透明感で、積極的な引合いは見られない。

—舟安开金岡・I-I开金岡

- ① 今月から前月比調査はなくなるも、1年前業況比較では記憶が薄らいで実感湧かず。4月からメーカー値上げに対し、現在の需要の出具合では製販一体とはならず、仮需も出ず。それぞれのメーカーの国内市場での値上げ努力の結果になるのではないかと。
- ② メーカーのコスト転嫁が相次ぐ中、足元の需要規模からか流通は様子見状態であった。流通としても社会的コスト増である流通コストの転嫁まで足踏みしては今後の事業継続が危ぶまれる。これは我々だけでなくユーザーも同様であり、しっかりと説明し業界全体でコスト転嫁に取り組むべきだ。
- ③ 鋼材価格が上がって現場が見直しをかけている物件も出て来ている。

異形棒鋼

- ① 年度末の荷動き回復も期待外れで、1~3月期は厳しい業績となった。この需要不振の環境下、製品市況の押し上げで採算確保を求めている。
- ② 3月後半から動きが悪くなった。4月以降も良くない。相場は変わらず。しばらくは我慢だと思う。

平鋼

- ① 3月は2月と同様で、店売りは低位横這いで推移。建築向けの加工品も、山積みは低い状態が続いている。2月契約でメーカーが値上げを発表し、値上げた材料が入り始めているので、4月には価格転嫁を進めていくが、荷動きが悪すぎる中での値上げとなるので、客先とのヒアリングを慎重に進め、価格転嫁を進めていく。

重量形鋼

- ① 稼働は前年並み。4月以降秋口までは現状通り横這いの見込み。

鋼管

- ① 荷動きの低調さは相変わらず。粗利は前年比3カ月連続で減少している。メーカー値上げ発表を受けて、来月より5~10円/Kgの値上げを実施予定。
- ② 決算期末月でもありメーカー出荷促進(引取依頼)が進んだ。在庫量としては2023年度(4月~3月)で一番の数量であった。首都圏の大型物件は動き出しているが、未だ荷動きの変化は少ない。4月からメーカー一斉の値上げ表明にもかかわらず、流通筋に仮需(引取)は見られなかった。ただし、価格の軟化はない。

構造用鋼

- ① 需要は、回復基調の自動車関連でもメーカーや地域間で格差が見られる。建機関連は調整。産機や工作機械も輸出が振るわず低調。総じて活気薄。在庫は調整も進み、ほぼ適正。価格は、メーカーが値上げ方針をアナウンスしているが、幅や時期で足並みも揃っておらず、様子見の状況。当面は横這いで推移か。

磨棒鋼

- ① 自動車向け紐付き品は、一部の向け先を除いて調整局面が続いている。建機向けは一進一退ながらも、全体的には弱含みの動き。店売りは安定しているものの、勢いはない。4月以降の出荷分より素材価格に加工賃是正分を加えた形で価格改定を進めていく。

その他

<異形バーインコイル・ナマシ鉄線>

- ① 年度末だったが動きは芳しくなかった。荷動きの悪い状況だが、市況は強含み傾向。メーカー値上げは必至なので、再販価格への転嫁を進めるしかない。

<鉄スクラップ>

- ① スクラップの荷動きは年度末にもかかわらず依然として低調。国内メーカーのスクラップ入荷量も見合っている。これだけ円安にもかかわらず、輸出商談は消極的。スクラップ相場の下落材料は揃っているが、スクラップの発生の極端な低迷が、今のスクラップ相場を下支えしている状況。

<金属表面処理>

- ① 紐付き、物件物は計画通り推移。スポット対応の扱い量が大幅に増加したことにより高操業であった。4月も高位安定の予定。